

[034]九州人類学会報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2341031>

出版情報：九州人類学会報. 34, 2007-07-21. Kyushu Anthropological Association
バージョン：
権利関係：



九州人類学研究会 平成 18 年度活動報告

平成 18 年度九州人類学研究会

【会員数】

会員 168 名

退会者 6 名

入会者 2 名

【平成 18 年度運営委員（五十音順）】

伊藤 泰信（北陸先端科学技術大学）

太田 好信（九州大学）

大谷 裕文（西南学院大学）

片多 順（福岡大学）

片山 隆裕（西南学院大学）：会報編集委員

慶田 勝彦（熊本大学）

後藤 晴子（九州大学大学院）：庶務

清水 展（九州大学）

白川 琢磨（福岡大学）：会報編集委員長

関 一敏（九州大学）：会報編集委員

内藤 順子（九州大学大学院）

波平 恵美子：会長

古谷 嘉章（九州大学）：会計監査

活動報告

7 月総会・研究会

平成 18 年 7 月 15 日 14 時より 18 時 於 九州大学文学部

講演「世界の片隅からグローバル化に対抗／便乗してゆく企て」

清水 展（九州大学大学院 比較文化研究院）

参加者 46 名

オータムセミナー

平成 18 年 10 月 28 日（土曜日）から 10 月 29 日（日曜日）

於 福岡県嘉穂郡・サンヴィレッジ茜

【10 月 28 日 13 時より 17 時：個人発表】

東 賢太朗（宮崎公立大学人文学部 専任講師）

「呪術・リアリティ・他者—フィリピン地方都市のフィールドワークから」

宮崎 聖子（福岡女子大学文学部 助教授）

「植民地期台湾における青年団と地域の変容—台湾北部 A 街の事例から」

宮岡 真央子（福岡大学人文学部文化学科 専任講師）

「台湾原住民俗を取り囲む壁—ある刑事事件に見るツォウの民族主体としての実践と葛藤」

【10 月 29 日 9 時より 12 時：個人発表】

才津 祐美子（福岡工業大学社会環境学部社会環境学科 助教授）

「『文化遺産』という文化の継承の在り方について」

田村 和彦（福岡大学人文学部東アジア地域言語学科 専任講師）

「中国における『死』の革命—陝西省中部地域の葬儀改革と墓地政策を事例として」

シンジルト（熊本大学文学部 教授）

「『最後の遊牧帝国』の末裔たちが語る病の歴史と現在—新疆イリ川流域で野調査報告—」

参加者 28 名

3 月例会 修士論文発表会 於 九州大学文学部

平成 19 年 3 月 17 日 13 時より 18 時 於 九州大学文学部

【発表】

- 1：赤崎 小弓（九州大学大学院人間環境学府 人間共生システム専攻）
「漁労活動における技術革新と発展過程の分析—長崎県 K 漁村の場合を中心に」
- 2：柿 美奈（九州大学大学院人間環境学府 人間共生システム専攻）
「黒砂糖と奄美の近代」
- 3：亀崎 敦司（福岡大学大学院人文科学研究科 社会・文化論専攻）
「民俗形成主体再考のための歴史人類学的アプローチ—北部九州の粥占を事例として—」
- 4：金 瑩（福岡大学大学院人文科学研究科 社会・文化論専攻）
「北部九州の観音信仰に関する文化人類学的考察」
- 5：グエン・ティ・タン・ハー（九州大学大学院人間環境学府 人間共生システム専攻）
「被差別部落の民俗と部落解放運動—地区の生活史の語りから—」
- 6：宇野 徹矢（熊本大学大学院文学研究科 地域科学専攻）
「『府中青年の家裁判』再考—性的指向の論理をめぐって—」
- 7：松尾 大吾（西南学院大学大学院 国際文化専攻）
「Web2.0 状況の社会と文化生産—メディア・リテラシー形成への提言」
- 8：松本 匡志（九州大学大学院比較社会文化学府 国際社会文化専攻）
「『ひきこもり』をめぐる定義の政治—ひきこもり当事者・経験者およびその家族の書籍、同人誌を中心に—」
- 9：田久保 あやか（九州大学大学院人間環境学府 人間共生システム専攻）
「弱さをわかちあう場所—アルコール依存症自助グループにおける回復」

10：中野 明希子（西南学院大学大学院 国際文化専攻）

『HIV ポジティブ』という実践に関する一考察—マレーシアの事例から—」

11：東 藍 （九州大学大学院比較社会文化学府 国際社会文化専攻）

「ラオス内戦を経て難民となったモンの活動：米国で生まれたモン・スタディーズをめぐって」

参加者：48 名

九州人類学会報 ISSN の登録

ISSN1881－7092 『九州人類学会報』（2007 年 1 月）

会報の発行

『九州人類学会報』第 34 号の刊行（平成 19 年 7 月 21 日）